

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
112	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol-related domestic violence: a household survey in Brazil. アルコール関連の家庭内暴力：ブラジルにおける家庭調査	
<b>執筆者</b>	
Fonseca AM, Galduroz JC, Tondowski CS, Noto AR.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Rev Saude Publica. 2009 Oct;43(5):743-9.	
<b>キーワード</b>	
家庭内暴力, アルコール飲酒, 家族関係, 都市住民, 健康調査, ブラジル	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> ブラジルの大都市におけるアルコールの影響による家庭内暴力の状況について明らかにすることを目的とした。	
<b>方法：</b> 家庭調査は、2005年の人口が20万人以上のブラジルの都市108についておこなった。条件付き階層化自己重みづけサンプルは、国勢統計区、家庭、回答者（12~65歳）の3つの選択ステージで実行された。データは、社会人口統計学及び向精神薬の乱用についての質問を薬物乱用精神保健局(SAMHSA)で収集した。	
<b>結果：</b> 7,939の家庭調査をおこなった。33.5%の家庭で家庭内暴力があり、このうち17.1%で加害者が中毒者であった。アルコールに関係した暴力のタイプのうち報告が多かったのは、家庭内の議論（81.8%）、特定の人を対象にしない騒々しい議論（70.9%）、暴力の脅威（39.5%）、家庭内の物品破壊（38.7%）だった。また、身体的暴力（27.8%）、武器を用いた身体的暴力（5.5%）、性的虐待（3.2%）も報告された。加害者の半数以上は同居者であり、88.8%は男性だった。犠牲者の大部分は女性（63.9%）で、33.9%は妻で18.2%は子供だった。家庭内暴力14.1%は1~5年続き、14.3%は10年以上続いた。ほとんどの被害者（86%）と加害者（77.9%）は、保健サービスや警察の助けを探さなかった。	
<b>結論：</b> アルコール依存症の加害者を含むと、暴力の経験があるブラジル人家庭が相当数あり、この種の中毒は、多くの特定の特性がある。保健サービスや警察に助けを求める割合が低いことは、家庭内暴力のケースを積極的に明らかにしていく重要性を示している。	